

グループ名	ユニット名等	科目名	担当教員名	対象学年次	学期
自己発見	2単位 文化を知る	美術	手塚 千尋	1年次	春

授業のキーワード	アートの学び、ワークショップ、コミュニケーション
授業の概要・目的及び修得させる知識・技能	本授業は、①生涯的に美術と関われるよう、美術の楽しみ方を学ぶこと、②「つくる」ことや「みる」ことで感じたことや考えたことをことばで表現したり伝えたりすることを通じて、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の育成を目的としています。講義に加え、作品の鑑賞やアートワークをワークショップ形式で授業を進めていきます。
履修のアドバイス・前提科目等	この授業では、ことばや色・かたちによる表現および鑑賞を通じて自己を認識したり、他の受講生との関係性の中で意味をつくりだす広義のアートの学びを目的としています。美術の得意・不得意に関係なく、積極的な参加を期待します。

## 授業展開

	テーマ	内 容		テーマ	内 容
第1講	ガイダンスとイントロダクション	授業前アンケート、これからの学習内容についてのガイダンスする。	第9講	鑑賞と美術館①	アートカードによる対話的鑑賞をおこなう。
第2講	アートのはじまり	美術はいつから始まったのか。美術史の大きな流れについて理解する。	第10講	鑑賞と美術館②	「ようこそアムステルダム美術館へ」VTR鑑賞から美術館の仕組みを理解する。また、なぜ美術館は必要なのかについてディスカッションする。
第3講	ウェアラブル・アート①	「他己紹介」をテーマにしたプリコラージュによる造形活動。インタビューから得られた相手の情報をコンセプト化し「身につけられる」造形で表現する。	第11講	鑑賞と美術館③	第10講へ続き、鑑賞、VTR中で出てくるアムステルダム美術館の抱える問題についてディスカッションする。
第4講	ウェアラブル・アート②	第3講へ続き、ウェアラブルオブジェクトを制作する。	第12講	コピーアート・ペーパーによるフォトグラム体験と鑑賞①	第12講・13講連続で、フォトグラム（カメラを使わずに、印画紙を直接感光させて画像を定着させる写真の技法）を体験する。モノのかたち（シルエット）、透過性などに注目しながら身近な人工物・自然物を「再発見」する。
第5講	ウェアラブル・アート③	どのような情報からどんなコンセプトを立て、造形で表現したかをプレゼンテーションし、相互にコメントしあう。	第13講	コピーアート・ペーパーによるフォトグラム体験と鑑賞②	第12講・13講連続によるフォトグラムワークショップ。後半では、作品の鑑賞とプレゼンテーションをおこなう。
第6講	日本美術の理解①	日本美術の絵+文字の表現様式を鑑賞および体験的に理解することを目的に、グループでかるたを制作する。	第14講	まとめとふりかえり	レポート課題を提示。授業全体のまとめ、各自ポートフォリオのまとめ、レポート作成のための質疑応答などを実施。
第7講	日本美術の理解②	第6講に続き、グループでかるたを制作する。	第15講	試験	試験は予め提示した課題に対するレポート。下書きやメモの持ち込み可。
第8講	安日本美術の理解③	お題に沿って制作したかるたを展覧会形式で鑑賞し合い、コメントしあう。最後にかるた取りを通じてアイデアを共有する。	評価方法		出席率 30%、ポートフォリオ 30%、レポート 40%
備考 (関連する資格・試験等)		この授業では、ポートフォリオも評価の対象とします。ポートフォリオは、授業で配布したプリントや制作物のファイリングのほか、授業のまとめとして自分の学習過程と学びを記録していきます。			
使用する教科書（必ず購入してください）			参 考 文 献		
特になし。随時資料を配布する。			美術検定実行委員会編『美術検定副読本 西洋・日本美術史の年表——目瞭然！美術の流れ』、美術出版社、2009		